

＜お詫びと訂正＞

取扱説明書の記載内容を下記の様に訂正してお詫びいたします。

67ページの記載の訂正

「Revive_CHK(リヴァイブ・チェック)」の機能解説において「L1」が初期設定と記載されておりますが、正しくは「off」が初期設定です。

＜「Revive_CHK(リヴァイブ・チェック)」使用時の注意事項＞

XHEAD-2を設置したり設定する際に「Revive_CHK(リヴァイブ・チェック)」が「L1」や「L2」に設定されていると、本機能が誤動作し、設定・接続作業中に、XHEAD-2が再起動してしまう場合があります。

接続・設定作業や映像入力（接続）が完了するまでは、「Revive_CHK(リヴァイブ・チェック)」は「off」の状態（初期状態）のまま、設定を変更しないでください。

接続・設定作業や映像入力（接続）が完了したのち、長時間使用において不安定な入力映像によってXHEAD-2の送出映像が真っ黒になったり、乱れるなどの場合（またはその恐れがある場合）に「L1」や「L2」に設定するようにしてください（例えばBS/CS、地デジチューナーなどのHDMI信号を入力する場合なども作業完了後に設定変更することをお勧めします）。

「Revive_CHK(リヴァイブ・チェック)」は、すべての作業が終わった後（最後）に設定変更してください。

＜設備でご検討・作業を行うお客様へ＞

- 既存の地デジ放送と混合する場合は、地デジ放送のチャンネルの仕組みを理解している必要があります。特に初めて「地デジOFDM」をご利用になられる業者様におかれましては、事前に経験者の指導を受けるか、地デジのしくみに詳しい専門家に相談してください。
地デジ放送のチャンネル構成はアナログ放送と異なり「リモコンチャンネル（1～12）」と「サブチャンネル」、「物理チャンネル（UHFなど）」で構成されております。
また、設置作業の際は、別途接続ケーブルや混合器、放送波の状態を測定する測定器（地デジに対応したもの）などをご用意ください。
- 既存の地デジ放送と混合する場合は、リモコンチャンネル（1～12）に、一つ以上の空きが必要（既存の地デジ放送局のサブチャンネルにXHEAD-2を追加することはできません）。
現在受信されているテレビ放送のチャンネル状態（構成）は、必ず本機を接続する前に測定器か、現在使用している受信機（テレビのチャンネルスキャン機能や受信感度の確認機能）でご確認ください。
- 本製品は本体のボタン操作、またはLAN経由でWebサーバーから操作が可能ですが、現場に到着して操作方法が分からない（本体のボタンやメニューの使い方が分からない）、Webサーバーにアクセスできない、というお問い合わせを頂くことが多々あります。この様な場合、作業者は何時まで経っても作業が終わらない、長い時間設置作業に拘束されてしまう。ということになりかねません。
誠に恐れ入りますが、設置現場にお持ちになる前に、本製品の操作や設定方法を練習することをお勧めします。設定の手違いなどで本機が思う様に稼働しない場合、原因を素早く把握・特定するためにも、設置場所へお持ちになる前に本機の操作を練習するよう心掛けてください。
また、特に設置場所が特殊なLAN環境の場合、Webサーバーへのアクセスができないことがあります。作業当日に当該施設のネットワーク管理者に連絡できるように手配しておくこともお勧めします。
- 地デジ製品の運用には本機に内蔵している時計機能がたいへん重要になります。しかし、時計機能は長時間稼働していると以外に時刻のズレが発生します。時計機能を正確にご利用いただくためにもLAN（インターネットの常時接続）を利用した「NTPサーバー」の利用をお勧めします。